

会報

No. 5

1980年3月
日本分子生物学会
事務局発行

◆昭和54年度第2回評議員会記録

昭和54年12月17日(月) 7時より 於 福岡

出席者 渡辺 格, 三浦謹一郎, 堀内忠郎, 松原謙一, 小関治男, 村松正実,
岡田節人, 由良 隆, 吉川 寛, 石浜 明, 大沢省三, 岡田吉美,
(幹事 内田久雄, 溝渕 潔, 柳田充弘, 志村令郎, 関口睦夫)

欠席者 高浪 満, 広田幸敬, 飯野徹雄, 今堀和友, 上代淑人

1. 庶務幹事より経過報告があった。
2. 会計幹事より下記の件につき報告があり, 審議の上総会に議題として提出することを決めた。

53年度会計収支決算が終り, 監事に承認をうけたこと。

54年度の中間報告

55年度の子算を承認すること。

3. 来年度の年会は京都で12月に開催する。年会係としては集会幹事の志村令郎氏があたる。集会の会場費が相当かかるので, 学会より50万円を補助する。(次回以降については金沢→東京→広島→大阪という案がボンヤリと出た)。
4. 年会以外の会合も企画し, そのための補助として当面20万円を学会より支出する。今後の活動のための費用を確保するため, 賛助会員を積極的に集めることを始める。
5. 編集幹事より学会誌を発行するかどうかについて会員にアンケートをとった結果について報告があり, それに基づいて論議した。

○アンケートの回答60のうち, 反対は27(47%), 賛成19(33%), 条件つき賛成14(12%)であった。

○問題点は国際的に高い評価を得るような質を確保すること(editor-in-chiefとして専任できる人が得られるか)と費用の問題(1,000部で1頁につき1.2万円, 年600頁出すとすると720万円必要)である。

○学会誌の問題は重要であるのでこの段階で結論を出さず, どのような方策があるかを積極的に検討していくことになった。

6. 生物々理研連の委員に学会より内田久雄氏を推薦した。また科研費の委員にも分子生物学会より委員が推薦できるよう生物々理学会と協議する。
7. 次回評議員会は 55 年 5, 6 月頃に開く予定

◆第 2 回 日本分子生物学会年会における総会議事録

日 時 1979 年 12 月 19 日 (水) 午後 8 時～9 時

場 所 福岡市 九電ビル電気ホール

I. 議長として高橋泰常(愛知がんセンター), 松代愛三(阪大微研)が選出された。議長は委任状 47 通を含め総会が成立することを確認した。

II. 報 告

内田庶務幹事より, 第 1 回総会開催以降の本会事業の経過について報告があった。

III. 議 事

a) 溝渕会計幹事より前年度会計収支決算報告があり, これを承認した。本年度事業計画及び予算について説明がありこれを承認した。

b) 年会における演題数の急速な増加に鑑み, 将来演題を制限する可能性につき, 質問があった。これに対し渡辺会長よりしばらくは現状のままの年会運営を続けたい旨の発言があった。

IV. そ の 他

a) 柳田編集幹事より欧文誌発行に関するアンケートの集計結果についての報告があった(別項参照)。

b) 次期年会は昭和 55 年 12 月上旬, 京都において開催し, 年会係を志村令郎氏(京大・理)に委嘱した(別項参照)。

◆欧文誌発行についてのアンケート集計結果の報告

アンケートには多くの会員の方々から回答が寄せられ, また有益なご意見を頂きました。集計結果ならびに, 博多での第二回大会時に開かれた評議員会でのこの件についての議論の結果を報告します。

1. アンケート集計結果

回答者総数 61 名

(1) 学会が欧文誌を発行することについて

反対 30名, 賛成 19名, 条件付賛成 7名, どちらでもよい 2名,
その他 2名

- (2) 反対の理由として多かったのは,
- | | |
|----------------------|-------|
| 国際, 国内すでに充分の数の欧文誌がある | (19名) |
| 評価の高い欧文誌を作るのが困難 | (18名) |
| 人的な努力が大変 | (14名) |
| 時期尚早である | (11名) |
- (3) 賛成の理由として多かったのは,
- | | |
|---------------------|-------|
| 日本で分子生物学の欧文誌発行に意義 | (11名) |
| 速報が期待できる | (9名) |
| 日本での分子生物学の状況を把握しやすい | (8名) |
| 国際的な発言権の増大が期待できる | (7名) |
- (4) 条件付賛成の理由として多かったのは,
- | | |
|-----------------------|------|
| 国際的に評価の高い欧文誌を発行できる見込み | (4名) |
| 英文校閲がしっかりするなら | (2名) |
| 大幅な会費値上げをしないですむなら | (2名) |
- (5) もしも欧文誌を発行するとしたらどのようなものがよいかという点については,
- 年間4~6回発行し, Editorial Board には, 学会員に限らず, 外国人も含めるとい意見が圧倒的多数。
- 発行する論文の形式は, 多数の full paper と少数の Short paper (27名) が多数意見でした。
- 学会欧文誌として最も大切と思われる点は, 論文の水準が高いこと(43名), 速く刊行されること(26名), 定期的に続行して刊行(23名)
- (6) 欧文誌発行の経費についての多数意見は会費値上げせずに別途購入(25名), 補助金, 寄付などで収入増大をはかる(19名)
- (7) 欧文誌が発行されたら, 発表を予定する論文は, 数年に一編(15名), 一年に一編(12名), とくにない(10名)

以上のようにアンケートに回答を寄せられた会員多数の方々の意見としては, 欧文誌刊行に反対の意向が強いと言えます。もしも発行するとしても, 論文の水準が高く, 国際的に評価の高いものを作れる見通しがあることが必

要条件のようです。現実には、多くの国内学会の欧文誌をみれば、それが極めて困難であると多くの会員の方々は判断されているようです。

いっぽう少数とはいえ、欧文誌発行を強く希望する会員の方々もおられます。日本の分子生物学の実力をもってすれば、定期的に刊行するなら必ず良い Journal になるであろうという楽観的意見もありました。

アンケートには多くの方々が御意見を記しておられますので、今後の議論の参考にさせていただきます。

2. 評議員会での議論と今後の方針について

評議員会では、アンケート集計結果を参考とし、議論が進められました。会員の方々の意見分布と同じように意見が分かれ、かなり長い時間を討議に費やしながらか明確な結論をおろすにはいたりませんでした。

しかしながら会長、一部評議員の、欧文形式のもの（Journal とは限らない）を是非発刊すべきだという強い積極的意見もあり、この件について、編集幹事を含めて数人のワーキンググループを作ることになりました。ワーキング・グループでは、欧文誌を発行するとしたらどのような条件を整える必要があるか、欧文で Journal 以外のものを発刊するかどうか等を「考える」こととなります。

編集幹事としましては、なるべく早く結論を下したいのですが、学会自体が設立まもないことでもあり、また会員の構成も変化しつつあることを考慮すると、最終的な結論をおろすには、今後相当の時間をかけるのが賢明かと思えます。（柳田充弘）

◆第3回年会のお知らせ

第3回日本分子生物学会年会は、12月に京都で開かれる予定です。詳細は追ってお知らせしますが、現在のところ以下のような予定であります。

1. 会 期：1980年12月9日（火）～11日（木）
2. 会 場：京都会館を予定しています。
3. 講 演：普通講演を主にしますが、他の形式についても検討するつもりです。
4. 参加申し込み：用紙を6月頃にお届けします。講演申し込みの締め切りは、9月中旬の予定です。

5. 宿 泊：特にお世話しません。できれば、その内に宿泊施設のリストを御参考までに作りたいと思っています。
6. 連絡先：プログラム，展示，その他について御意見やお問合せがありましたら下記へお願いします。

〒 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部生物物理学教室
第 3 回日本分子生物学会年会係
志 村 令 郎
TEL 075-751-2111 (内線 4201)

◆昭和 54 年度 山田科学振興財団研究援助について

会報 № 4 でご報告いたしました通り，本会より 3 件の候補を推薦いたしましたがお同財団より「本年度はご希望に副い得ずまことに存じますが，明年 55 年度におきましても本年と同様貴会よりのご推薦をいただきたくお願い申し上げます」旨の連絡がありました。

◆遺伝子操作協議会より

「動物・植物並びに昆虫ウイルスのゲノムを含む組換え DNA 実験に関する危険度評価についての US-EMBO ワークショップ報告」(訳)の残部が多少ありますので，希望者は送料 140 円(切手)を同封の上，下記へお申し込み下さい。

〒 108 東京都港区白金台 4-6-1
東京大学医科学研究所
内 田 久 雄

◆第 8 回 核酸化学シンポジウム予告 (I)

と き 昭和 55 年 8 月 21 日(夕刻より)，22 日，23 日(午前中)
と ころ 札幌市西区手稲本町 593-3 手稲ランド研修センター
講演内容 核酸とその関連物質の有機化学，物理化学および生化学

今回のシンポジウムは合宿形式で行うことにいたしましたので，参加を予約制とし講演申込みと同時に参加者(21日，22日の宿泊)の受付を行います。予約締切は 5 月上旬を予定しており，詳細は予告(Ⅲ)にてお知らせいたします。尚，研修センターの宿泊収容人数は約 120 名です。

連絡先 〒060 札幌市北区北12条西6丁目
北海道大学薬学部
上田 亨
TEL 011-711-2111 (内線 3975)

◆講演会のお知らせ

日本生化学会関東支部、東京大学医科学研究所学友会との共催により、下記の通り講演会を開催いたします。

日時 1980年4月21日(月) 午後4時
場所 東京大学医科学研究所 講堂
(東京都港区白金台4-6-1)
演者 Arther Kornberg (Stanford University)
演題 DNA Replication

◆会報原稿の募集について

本会会員の相互連絡のため会報を提供いたします。ご希望の方は原稿を事務局までお送り下さい。但し、選択については事務局におまかせ下さい。また、最近分子生物学に関係ある国際集会等に参加された会員にその紹介記事をお願いしたいと考えております。該当する方をご存知でしたら、事務局までご連絡下さい。